

アワフキムシ

初夏は、みずみずしい緑が目^{あざ}に鮮やかな季節^{きせつ}で、良い天気の日が続くことが多く、野外^{やがい}の散策^{さんさく}、自然観察^{しぜんかんさつ}に良い季節です。富山市街^{とやましがい}のすぐそばの丘陵^{きゅうりょう}、呉羽山^{くれはやま}には気軽に散策^{きがる}できる遊歩道^{さんさく}が雑木林^{ゆうほどう}の中に続いています。



アワフキムシの泡

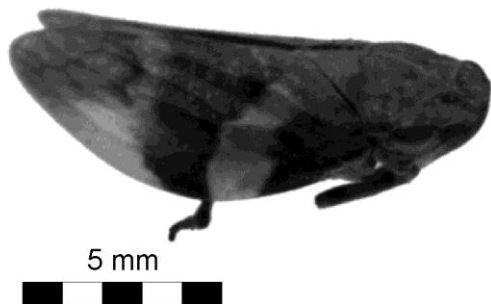
林のへりの、キイチゴ^{えだ}の枝やヨモギ^{くき}の茎^{あわ}には、小さな白い泡^{かたまり}の塊がよく付いています。この泡は何なのでしょう。

昔の人は、この泡を小鳥^{こちゅう}のつばだとか、ホタルの幼虫^{ようちゅう}が中^{ちゅう}にいるのだとか言い伝えてきました。今でも、この泡の中^{ちゅう}にいるのがホタルの幼虫だと思っている方がおられます。

実は、この泡は「アワフキムシ」(漢字で書くと「泡吹き虫」)というセミ^{こんちゅう}に似た小さな昆虫の幼虫^{こんちゅう}が作ったものなのです。同じ昆虫ですがホタルの幼虫ではありません。アワフキムシの仲間にはいろいろな種類^{しゅるい}がいるのですが、雑木林^{ぞうきばやし}の灌木^{かんぼく}や草の枝や茎^{しる}に最も普通に見られるのは、「シロオビアワフキ」という種類^{しゅるい}です。

そっと息を吹きかけて、泡をどけてみましょう。泡の中^{ちゅう}から黒い体に腹^{へら}が赤い虫^{むし}が現れます。アワフキムシの幼虫^{ようちゅう}は、セミと同じく、植物^{しょくぶつ}の茎^{しる}から汁^{じゅう}を吸^すい、その中^{ちゅう}に含まれる栄養分^{えいようぶん}

を吸^す取^とりし余分な水分^{すいぶん}をおしりから出^だしますが、その液^{えき}に腹部^{ふくぶ}を伸縮^{しんしゆく}させながら空気を混ぜて泡を作ります。アワフキムシの幼虫^{ようちゅう}は、この泡の中^{ちゅう}で乾燥^{かんそう}と天敵^{てんてき}から身を守りながら、成長^{せいちょう}し、7月ごろには成虫^{せいちゅう}になります。成虫になるともう泡は作りません。体^{かた}も硬くなり、ハネで飛ぶことのできる成虫^{せいちゅう}は、泡の中^{ちゅう}に隠^{かく}れる必要^{ひつよう}がないのでしょね。



シロオビアワフキ

(2010年4月 根来 尚)